

平成21年度  
全国学力・学習状況調査

分析結果



下野市教育委員会

平成22年2月15日

# 目 次

1	はじめに	1
2	下野市全体の傾向	
(1)	学力調査の結果より	
①	学力調査について	1
②	全体比較	1
③	領域別比較	2
④	国語, 算数・数学の課題 (概要)	3
(2)	学習状況調査の結果より	
①	学力と学習状況の相関	5
②	良好な面	6
③	課題とされる面	7
3	国語, 算数・数学の分析結果	
(1)	国語	
①	小学校国語	
ア	国語A (知識)	8
イ	国語B (活用)	9
②	中学校国語	
ア	国語A (知識)	10
イ	国語B (活用)	11
(2)	算数・数学	
①	小学校算数	
ア	算数A (知識)	12
イ	算数B (活用)	13
②	中学校 数学	
ア	数学A (知識)	14
イ	数学B (活用)	16
4	学習状況調査の分析結果	
(1)	基本的な生活習慣	17
(2)	学習時間等	
①	学習時間について	18
②	授業の予復習等について	19
(3)	国語・読書, 算数・数学について	20
(4)	学校生活	21
(5)	家庭でのコミュニケーション	22
(6)	規範意識・自尊意識等	23
(7)	地域について	24
5	学校質問紙の分析結果	
(1)	良好な面	26
(2)	課題とされる面	27

# 平成21年度全国学力・学習状況調査分析結果

平成22年2月15日  
下野市教育委員会

## 1 はじめに

下野市教育委員会では、平成21年度の全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、9月3日付けで速報をお知らせしました。

今年度も第二段階として、下野市全体としての結果を分析し、公表いたします。

各学校やご家庭におかれましては、この分析結果を今後の学習指導の工夫改善や児童生徒の学習意欲の向上に役立てていただきたいと思います。

## 2 下野市全体の傾向

### (1) 学力調査の結果より

#### ① 学力調査について

学力調査		下野市	栃木県(公)	全国(公)
調査対象	小学校 12校	582人	※18,288~18,299人	※1,137,598~1,137,844人
人数内訳	中学校 4校	629人	※17,679~17,683人	※1,033,291~1,033,909人

※国語A・B、算数・数学A・Bそれぞれで参加人数が異なるため

A問題(主として「知識」に関する問題)

B問題(主として「活用」に関する問題)

《国語A・Bの領域》 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」

※国語は小学校、中学校共通

《算数A・Bの領域》 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」

《数学A・Bの領域》 「数と式」「図形」「数量関係」

#### ② 全体比較

### 全国学力調査結果 下野市と全国平均との比較 【H19～21全体比較】

○大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

—同じ(±1ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

小学校	平成19年度	平成20年度	平成21年度	中学校	平成19年度	平成20年度	平成21年度
国語A	○	○	○	国語A	◎	○	○
国語B	◎	○	○	国語B	◎	◎	◎
算数A	○	○	—	算数A	◎	◎	◎
算数B	◎	○	—	算数B	◎	◎	◎

平成21年度の全国学力・学習状況調査の下野市の全体の結果(国語、算数・数学)は、小学校、中学校ともに、すべての領域で、全国平均正答率を上回る結果となった。

【小学校の全国学力調査全体結果について】

小学校は国語はやや全国平均正答率を上回っていた。算数はわずかに全国平均正答率を上回る結果で、ほぼ全国と同じ正答率であった。

小学校の今年度（平成21年度）の平均正答率（難易度）は、すべてのテスト（国語A・B算数A・B）において、下野市、全国ともに、昨年度（平成20年度）より高く、一昨年度（平成19年度）より低い結果となった。

今年度の市と全国平均正答率との差は、国語B以外で、過去3年間で最も少ない差となった。したがって今年度の小学校の学力調査の結果は総合的に、ほぼ全国並みと見ることができる。

全体的には年々全国平均との差が縮まる傾向が見られる。その年度の学年の特徴として捉えるか、市全体の学力と全国の学力が接近していると捉えるかは別として、小学校においては、さらなる学力向上の必要性があると言える。

### 【中学校の全国学力調査全体結果について】

中学校は国語B、数学A・Bで全国平均正答率を大きく上回り、国語Aでやや上回っていた。

中学校の今年度（平成21年度）の平均正答率（難易度）は、下野市、全国ともに、過去3年間で国語Aが2番、国語Bが3番、数学Aが1番、数学Bが2番であった。

今年度の市と全国平均正答率との差は、国語B以外で、過去3年間で最も少ない差となった。中学校は依然として国語A以外は5ポイント以上全国平均を上回っているが、今後さらに確かな学力の定着に向けて努力していく必要がある。

## ③領域別比較

### 全国学力調査結果 下野市と全国平均との比較 【H21 領域別比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上）

○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	国語A	国語B	小学校算数	算数A	算数B
話すこと・聞くこと	◎	○	数と計算	○	－
書くこと	○	○	量と測定	▽	－
読むこと	○	○	図形	－	○
言語事項	－	○	数量関係	○	－

中学校国語	国語A	国語B	中学校数学	数学A	数学B
話すこと・聞くこと	○		数と式	○	◎
書くこと	○	◎	図形	◎	◎
読むこと	○	◎	数量関係	◎	◎
言語事項	○				

### 【小学校の全国学力調査結果について】

国語は、A・B問題とも、全国の平均正答率をどの領域も上回っていた。特に国語のA問題では、4領域の内「話すこと・聞くこと」が5.2ポイント上回っていた。

算数は全体的にはA・B問題ともに、わずかに全国平均を上回っていた。しかし、算数のA問題では、4領域の内「量と測定」が2.3ポイント、「図形」が0.3ポイント、全国の平均正答率を初めて下回り、課題となった。

### 【中学校の全国学力調査結果について】

国語のA・B問題、数学のA・B問題ともに、全国の平均正答率をどの領域も上回っていた。

国語はA・B問題合わせて6領域中、B問題の2領域「書くこと」「読むこと」で5ポイント以上全国平均正答率を上回っていた。数学はA・B問題合わせて6領域中5領域で、5ポイント以上全国平均正答率を上回っていた。

以上のことから、国語と算数・数学を比較すると、今年度は小学校は国語、中学校は数学が達成度が高かったことがわかった。

今年度は特に小学校において、基礎基本の定着、応用・活用する力を両方育成することが課題として挙げられる。

## ④国語、算数・数学の課題（概要）

### 国 語

小・中学校どちらも、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国を上回っている。小学校では「国語の勉強は好き」「読書は好き」と答えた小学生の割合がともに全国より9%程度高いことが、今年度も本市の特徴の一つとして挙げられる。中学校では2～5%程度上回っていた。総体的には昨年度、一昨年度と比べてやや上回った差が少なくなっていた。無回答率は、全問題について、全国平均無回答率を下回っていた。特に以下のような課題が見られた。

#### 【小学校】

##### 《話すこと・聞くこと》

国語Bの「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する問題では、正答率が2割程度で低く、全国平均正答率より下回っていた。全国同様、自分の立場や意図を明確にして話し合うことに課題がある。

##### 《書く能力》

国語Bの2つの意見文を比べて読み、文章の組み立てを考える問題は、全国を下回る問題があった。事実・事例と感想・意見を区別して書くことが課題である。

##### 《言語事項》

国語Aの「漢字を正しく読む」という出題において、「季節が移る」「植物を採集する」の設問が、「漢字を正しく書く」という出題において「人の意見にさんせいする」が、全国平均正答率よりも2%程度低く、漢字の読み書きにやや課題がある。また、「ローマ字を正しく読んだり書いたりする」ことは、全国平均正答率は上回っていたが、正答率が4割～5割程度で低く、全国同様課題がある。

「毛筆の下書きについて書き直す内容を説明する」問題では、正答率が2割程度で低く、全国より下回っていた。このことから、文字の大きさや配列に注意して書く力に課題が見られた。

#### 【中学校】

##### 《書く能力》

国語Aでは、主語（主部）に合わせて述語（述部）を適切に書く問題が5割程度の正答率であった。全国平均は上回っているが、全国同様、課題としてあげられる。

##### 《読む能力》

国語Aでは、短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れ目を付けたものとして適切なものを選択する問題の正答率が3割程度で、国語ABを通して最も低い正答率であった。短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことに課題がある。

##### 《言語事項》

国語Aでは、適切な語句を選択する問題において、「もどかしい」を選択する問題が5割程度の正答率であった。「ならわし」を選択する問題は7割程度の正答率で、唯一全国平均正答率を下回っていた。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題が見られた。これは昨年度も課題としてあげられていた。

## 算数・数学

平均正答率は、算数A（知識）・算数B（活用）でわずかに、数学A（知識）・数学B（活用）では5ポイント以上、全国を上回っていた。また、「算数・数学が好き」と答えた小中学生の割合は、今年度も全国を3～7%程度上回り、3年続けて高い傾向にあった。しかし、以下の点が課題として見られた。

### 【小学校】

#### 《数と計算》

算数Aでは、整数、小数の除法の計算が、やや全国平均正答率を下回っていた。一部の内容で、基本的な計算の技能の定着が課題となった。また、数直線からの数の読みとり、数の構成についても、全国平均正答率を2～4%下回り、課題がある。

算数Bでは、全国同様、情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することに課題がある。

#### 《量と測定》

算数Aでは、方眼上の三角形の面積を求める式を書く問題の正答率が、7%程度と、大きく全国平均を下回っていた。示された方眼を基にして三角形の面積を求めることに課題がある。

算数Bでは、実験を基に筋道を立てて考え、重さの範囲を記述し、当てはまる重さを選択することに課題が見られた。

#### 《図形》

算数Aでは、長方形を一本の対角線で切った時にできる図形の名前を選ぶ問題が2%程度全国平均正答率を下回っていた。長方形、直角三角形の定義や性質についての理解がもう少しであることが分かった。

算数Bでは、全国同様、円の半径の求め方として示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述することに課題がある。

#### 《数量関係》

算数Aでは、減法と除法の混合計算が2%程度全国平均正答率を下回っており、全国同様課題がある。

算数Bでは、グラフから必要な数量を読み取ったり、グラフの特徴を基に数量の変化の様子をとらえることが課題となった。

### 【中学校】

中学校では、全設問において全国平均正答率を上回っていたが、特に正答率が低かった内容は、以下のとおりである。

#### 《数と式》

数学Aでは、等式 $S = 1/2ah$ を $a$ について解く問題や、一元一次方程式をつくるために、着目する数量を答える問題が4割程度の正答率であった。等式を目的に応じて変形することや、一元一次方程式をつくって問題を解決するために、2通りに表せる数量に着目することに課題があった。

#### 《図形》

数学Aでは、三角形の内角の和が $180^\circ$ であることの証明について正しいものを選ぶ問題が3割台の正答率であった。証明の意義についての理解が課題である。

#### 《数量関係》

数学Aでは、反比例を表した事象を選ぶ問題や、 $2x + y = 6$ の解を座標とする点の集合がどのようになるか選ぶ問題の正答率が、4割程度であった。具体的な事象で、2つの数量の関係が反比例の関係になることへの理解や、二元一次方程式の解を座標とする点の集合は直線として表されることへの理解に課題があると考えられる。

数学Bでは、蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する問題が、2割程度の正答率であった。これは数学A・B全設問の中で、最も低い正答率であった。事象を数学的に解釈し、問題解決のために数学を活用する方法を考えて、説明することは、最も難しい課題であると考えられる。

## (2) 学習状況調査の結果より

学習状況調査		下野市	栃木県 (公)	全国 (公)
調査対象	小学校 1 2 校	582 人	18,296 人	1,137,551 人
人数内訳	中学校 4 校	631 人	17,686 人	1,033,163 人

質問数	小学校、中学校ともに77問
回答方法	4つから選択 1 している (当てはまる) 2 どちらかといえばしている (当てはまる) 3 あまりしていない (どちらかといえば、当てはまらない) 4 全くしていない (当てはまらない)
質問内容	小学校、中学校ともに同じ内容 ○基本的な生活習慣 ○目標、達成感、長所 ○学習・テレビ・ゲーム時間 ○家庭でのコミュニケーション ○関心・意欲・態度 ○規範意識・道徳性 ○教科・学習の取り組み ○解答時間 等

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、小中学校ともに77項目中39項目で全国・県平均を上回っていた。（昨年度は75項目中44項目）特に「基本的な生活習慣」、「家庭での学習習慣」、「友達や地域との関わり」、「国語や算数・数学の学習への取組」等については、昨年度同様よい結果が認められた。また、昨年度の課題であった「将来の夢や目標」については、今年度は改善が見られた。

### ①学力と学習状況の相関

市の学習状況調査の結果から、小学校中学校ともに学力調査結果との相関関係（学習状況調査で望ましい回答をしている子ほど、学力調査の平均正答率が高い）が見られた項目は、次のとおりであった。 ※太字は昨年度も相関が見られた項目

〈家庭での学習態度に関するもの〉

- ( 2 ) 持ち物の確認 ( 5 ) **達成感** ( 1 6 ) 平日の家庭学習時間  
( 2 6 ) **計画を立てた学習** ( 2 7 ) 学校の宿題 ( 2 8 ) 予習  
( 3 0 ) 苦手な教科の学習 ( 3 1 ) テストで間違えたところの学習

〈家庭での生活に関するもの〉

- ( 2 3 ) 学校の出来事の話

〈関心・意欲・態度に関するもの〉

- ( 3 3 ) 好きな授業 ( 3 4 ) **ニュースへの関心**

〈授業に関するもの〉

- ( 4 7 ) **発表の機会** ( 4 8 ) 話し合う活動 ( 4 9 ) ノートを丁寧に書く

〈規範意識に関するもの〉

- ( 3 7 ) 学校のきまり ( 3 8 ) **友達との約束**

〈国語に関するもの〉

- ( 5 5 ) **国語で学習したことの有用感** ( 5 8 ) 話の組み立ての工夫  
( 5 9 ) 理由をつけて自分の考えを書くこと

- ( 6 0 ) 段落・まとめごとに理解して文章を読むこと ( 6 2 ) **文章解答の努力**

- ( 7 2 ) **解答時間 (国語 A)**

〈算数・数学に関するもの〉

- ( 6 4 ) 算数・数学の重要性 ( 6 5 ) **算数・数学の理解** ( 6 5 ) **多様な解決方法**

- ( 7 0 ) 簡単な解決方法 ( 7 1 ) 公式・きまりの根拠の理解

- ( 7 2 ) 解法・考え方のノートへの記録 ( 7 3 ) **説明解答の努力**

## ②良好な面

学習状況調査の下野市の結果を全国（県）、県と比べて、小学校中学校ともに上回っていた質問内容は、次のとおりであった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	<b>97.2</b>	96.0	<b>94.8</b>	92.4
(4)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	<b>93.1</b>	90.2	<b>94.1</b>	90.9
(5)	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	<b>95.9</b>	93.8	<b>95.8</b>	91.9
(7)	自分には、よいところがあると思いますか	<b>79.8</b>	74.6	<b>70.5</b>	61.2
(8)	将来の夢や目標を持っていますか	<b>90.2</b>	86.3	<b>80.5</b>	71.0
(12)	普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか ※3時間以上	<b>43.5</b>	45.7	<b>32.3</b>	38.0
(16)	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか※2時間以上	<b>26.4</b>	25.7	<b>44.2</b>	35.7
(24)	家の手伝いをしていますか	<b>84.4</b>	78.5	<b>64.2</b>	63.0
(26)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	<b>58.2</b>	54.7	<b>44.5</b>	37.9
(27)	家で学校の宿題をしていますか	<b>96.2</b>	95.5	<b>85.6</b>	83.0
(28)	家で学校の授業の予習をしていますか	<b>44.0</b>	37.5	<b>42.3</b>	29.5
(30)	家で苦手な教科の勉強をしていますか	<b>55.4</b>	47.9	<b>56.9</b>	41.7
(28)	家で学校の授業の復習をしていますか	<b>50.8</b>	40.4	<b>56.7</b>	39.6
(31)	家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか	<b>53.6</b>	49.5	<b>46.4</b>	38.1
(32)	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	<b>97.8</b>	96.5	<b>97.3</b>	94.7
(33)	学校で好きな授業がありますか	<b>96.2</b>	93.3	<b>82.6</b>	78.7
(34)	新聞やテレビのニュースなどに興味がありますか	<b>76.3</b>	67.8	<b>73.8</b>	66.1
(35)	今住んでいる地域の歴史や自然について興味がありますか	<b>57.9</b>	47.2	<b>30.3</b>	23.4
(37)	学校のきまり（規則）を守っていますか	<b>94.5</b>	88.5	<b>94.3</b>	88.6
(38)	友達との約束を守っていますか	<b>97.7</b>	96.5	<b>98.2</b>	96.1
(39)	人が困っているときは、進んで助けていますか	<b>86.7</b>	78.6	<b>77.3</b>	71.2
(41)	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	<b>96.9</b>	91.4	<b>93.9</b>	91.9
(42)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	<b>97.1</b>	94.9	<b>93.2</b>	90.3
(43)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	<b>96.1</b>	92.5	<b>94.3</b>	90.4
(47)	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	<b>81.5</b>	79.3	<b>74.6</b>	69.6
(48)	普段の授業では、友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか	<b>84.0</b>	75.6	<b>74.5</b>	52.7
(51)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますか ※思わない、どちらかといえば、思わない	<b>37.4</b>	34.8	<b>28.7</b>	24.9
(57)	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	<b>64.0</b>	56.0	<b>49.9</b>	41.8
(58)	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	<b>61.5</b>	56.3	<b>47.5</b>	39.3
(59)	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	<b>74.9</b>	66.2	<b>63.5</b>	55.1
(60)	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	<b>76.3</b>	70.8	<b>66.5</b>	60.7
(61)	国語B-1にあるような、長い文章を読むのは難しかったですか ※思わない・どちらかといえば思わない	<b>49.7</b>	45.8	<b>51.5</b>	44.5
(62)	解答を文章で書く問題について、どのように解答し	<b>74.1</b>	67.6	<b>75.1</b>	69.4

(63)	ましたか ※最後まで解答を書こうと努力した 算数・数学)の勉強は好きですか	73.5	66.2	55.8	52.5
(67)	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あ きらめずにいろいろな方法を考えますか	82.1	76.8	70.0	64.8
(68)	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中 で活用できないか考えますか	75.9	64.0	38.9	34.3
(70)	算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に 解く方法がないか考えますか	85.2	78.1	71.3	63.6
(71)	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その わけ・根拠を理解するようにしていますか	72.7	68.7	72.4	65.7
(73)	言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、 どのように解答しましたか(解答を言葉や式を使って 説明する問題は、最後まで解答を書こうと努力しまし たか) ※最後まで解答を書こうと努力した	72.5	68.0	56.1	48.0
(74)	解答時間は十分でしたか(国語 A) ※時間が余った ・ちょうどよかった	59.3	56.6	96.0	94.1

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計  
または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計  
太字の質問番号は、昨年度も上回っていた質問

### ③課題とされる面

学習状況調査の下野市の結果を全国及び県と比べて、小学校中学校ともに下回っていた(ほぼ同じ)質問内容は、1つであった。

中学校のみで下回っていた質問内容は1つであった。

質問 番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国 県	市	全国 県
(11)	普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠 をとることが最も多いですか ※6時間より少ない	1.7	1.7 1.3	9.8	8.7 9.0
(49)	授業では、ノートを丁寧に書いていますか	76.8	73.6 75.7	83.5	85.1 84.2

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計  
または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

昨年度課題となっていた内容は4つあった。  
「将来の夢や目標」「(体の不自由な人やお年寄り)困っている人の手助け」については、今年度は小学校中学校ともに上回った。  
「家の人との朝食」については、小学校では上回ったが、中学校では下回った。  
「家で食事をするときのテレビ視聴」については、今年度は質問内容に含まれていなかった。



### 3 国語，算数・数学の分析結果

※ 本分析で使用している全国平均は，公立学校の平均である。

#### (1) 国語

##### ① 小学校国語

##### ア 国語A (知識)

《全体的な傾向》

全国平均正答率と比較すると，約1ポイント上回っていた。(昨年度は2ポイント)  
領域別に見ると，「書くこと」「言語事項」は約1ポイント上回り，「話すこと・聞くこと」，「読むこと」は4～5ポイント上回っており良好な結果であった。

#### ○正答率が低かった問題について

1	一 漢字を読む			
	(1) 駅は混雑している	(正答率 本市	95.6%	全国95.2%)
	(2) 春から夏へ季節が移る	( " " 87.5%	" 91.1%	)
	(3) めずらしい植物を採集する	( " " 78.2%	" 80.0%	)
	二 漢字を書く			
	(1) びょういんに行く	(正答率 本市	76.8%	全国76.1%)
	(2) 人の意見にさんせいする	( " " 76.8%	" 78.3%	)
	(3) 重い石をはこぶ	( " " 82.8%	" 80.6%	)

第5学年までに学習した漢字を文脈に合わせて適切に読み，正しく書く問題である。出題された漢字は，第5学年の配当漢字のみならず，第3学年(集，病，院，運)や第4学年(成)の配当漢字も取り上げられている。

#### ◇学習指導に当たって

漢字を正しく読み，書く力は，表現したり理解したりするために必要な基礎的な知識や技能であり，漢字を含む語彙の拡充を図るためにも重要である。

##### (i) 文脈に合わせて適切に漢字を使う

漢字を正しく読んだり書いたりできるようにするためには，漢字に対する興味関心を高め，漢字が果たしている役割や働きを押さえながら，適切に漢字が使えるようにすることが大切である。また，仮名及び漢字の由来，特質などと関係付けたり，正しく発音したりするなどの指導も重要である。他にも，担任による音読指導で，読み方の確認等も必要となってくる。

##### (ii) 語彙力を高める

漢字が日常生活の中で，学習した漢字がどのように使われているかを調べるなど，興味・関心を高めながら語彙の拡充を図ることが重要である。

##### (iii) 国語辞典や漢字辞典の利用

常に手元に辞書を置き，必要に応じて積極的に使えるようにするなど，日常から配慮する必要がある。調べる習慣を通して，言葉への関心が高まり，難しい語句の理解や漢字の定着に役立つと考える。

#### 2 ローマ字を読んだり書いたりする。

1	[くすり]	(正答率 本市	69.9%	全国69.4%)
2	[たべもの]	( " " 47.8%	" 45.5%	)
3	h a p p a	( " " 55.0%	" 51.9%	)

#### ◇学習指導に当たって

##### (i) ローマ字の規則性を押さえる

ローマ字には，ヘボン式や訓令式などがあることに配慮しながら，ローマ字表を

使って仮名五十音と対応した指導をすることが大切である。特に、母音と子音を基礎とした五十音表の規則性を押さえる必要がある。また、濁音、半濁音、長音などについても、音声と関係付けながら規則性があることに気付かせ、身に付けていくことができるような指導をすることが大切である。

(ii) 生活の中で、進んで読んだり書いたりする

ローマ字の指導については、第4学年から第3学年に移行している。学習したローマ字の読み方や表記の仕方を確実に習得するために、様々な学習や生活において活用することが大切である。本市においては、コンピュータが一人で1台使うことができる状況なので、3学年からローマ字を指導し、文章を作る場を設定することで着実に定着できるものと思われる。

8 一文を二文にする問題

「だから」を使い、下記の文章を二つの文に書き直す。

新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かし、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

(正答率 本市 15.6% 全国 14.7%)

◇学習指導に当たって

(i) 文や文の構成に注意して書く

第5・6学年では、文の構造として、単文、重文、複文などがあることについて理解できるようにすることが大切である。そのためには、一つの内容を一つの文に簡潔に書いたり、必要に応じて二つ以上の内容を一つの文にまとめて書いたりする指導が大切である。また、それとは逆に、二つ以上の内容が含まれた一文を内容ごとに一文ずつに分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど言語を操作する指導も大切である。

(ii) 伝えたいことを明確にする

児童が文章を書くとき、「・・・で」などの接続助詞を多用するために、一文が長くなり、意味内容が伝わりにくくなることもある。自分が伝えたいことを明確にし、接続語や文末の表現を工夫しながら簡潔に伝えることができるように指導することが必要である。

イ 国語B (活用)

《全体的な傾向》

本市は全国平均正答率と比較すると、1.9ポイント上回っている。(昨年度は1.4ポイント)。領域別に見ると、すべての領域において全国を上回っており良好な結果であった。特に「読むこと」「言語事項」は全国を3ポイント上回っていた。

しかし「書くこと」は2.6ポイント全国より上回っているが、正答率が全国的に低く、課題が残った。

○正答率が低かった問題について

1 調査報告文を書く 「書くこと」

小学生の体力の低下について興味を持ち、自分たちの小学校の実態について調べて報告文を書く場面の設定。報告文を書くために必要な材料をメモに書いたり、グラフを用いて自分の考えを効果的に書いたりすることが求められている。

設問1では、「平成21年の第一小学校の平均タイム」書いてある文章のもとになったメモの内容について、箇条書きの一つめの項目を書く問題である。

設問 2 では、調べて分かったことを 3 つの条件を満たしながら書く問題である。		
設問 1	(正答率 本市 12.0% 全国 11.4%)	(無回答率 本市 17.2% 全国 20.8%)
設問 2	(正答率 本市 22.2% 全国 17.7%)	(無回答率 本市 5.3% 全国 12.6%)

### ○分析

設問 1 では、問題の意味を理解できない児童が多く見られ、17.2%が無回答であった。また、「小見出しの作り方」や「項目立て」についての学習経験が少ないため、正答率が低かったと思われる。

設問 2 では、条件に合わせて書く経験が不足しているように思われる。これは、国語以外に社会・理科・総合的な学習においても、資料を読み取り、さらに比較し、それをまとめるという一連の学習から身につくものと思われる。

### ◇学習指導に当たって

#### (i) 全体を見通して書く事柄を整理する

5・6年生では、全体を見通して書く必要のある事柄を整理することが重要である。そのためには、目的や意図をふまえて、事柄を収集、選択した上で、構成したり記述したりすることが必要である。また、記述の段階においては、必要に応じて書く事柄を再度収集していくことも大切である。

#### (ii) 事実と意見とを区別して書く

報告文を書くためには、目的や意図に応じて調べ、事実に基づいて分かったことや考えたことを書く必要がある。そのためには、自分の意見の根拠となった事実と、自分の意見そのものとを区別して書く指導が大切である。

#### (iii) 文章と資料とを関係付けて書く

調査をして自分の考えを伝えるためには、文章だけでなく、調べたことを図解したり、表やグラフを用いたりすることが効果的である。目的や意図に応じて、自分が考えたことを明確に表現するために、文章と資料とを関係付ける指導が必要である。

## ②中学校国語

### ア 国語 A (知識)

### ○正答率が低かった問題について

7-1 短歌を読む（言葉のつながりや意味のまとまりから切れ目をつける）問題  
A 秋暮れて今年もさむし 午後はやく日かげる庭の白菊の光り

1 秋暮れて / ② 今年もさむし / 3 午後はやく / 4 日かげる庭の /  
(正答率 本市 31.6% 全国 28.9%)

### ○分析

短歌については中学 2 年生で扱う内容である。短歌というと、上の句・下の句という分け方があり、上の句・下の句という分け方と句切れを混同しているために「3」を選んでしまう間違いがあったのではないかと推測できる。また、句切れとは短歌中に句点「。」がつくところだが、読点「、」と勘違いすると「1」を選んでしまうことになる。

### ◇学習指導に当たって

生徒に好きな短歌を一首選ばせ、鑑賞文を書かせる教師は多いと思うが、その際、鑑賞文のなかで表現技法についても触れさせること（もちろん句切れも含めて）や短歌を一覧表にして句切れのテストを実施するなど有効な方法であると思われる。

8三 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる問題

ア 急いでいるときは靴をはくのも

1 おこがましい 2 いちじるしい ③ もどかしい 4 はなはだしい  
( 正答率 本市 54.1% 全国 49.3% )

#### ○分析

正答率が54.1%であり、言語事項等の問題の中でも、低い数値である。よって、語彙を豊かにするための指導が必要と考えられる。

#### ◇学習指導に当たって

授業に限らず、日常的に聞き慣れない言葉に出会ったら、国語辞典や漢和辞典を積極的に利用させることが大切である。あるいは、利用機会を意図的に設けることが必要である。

国語辞典には、語の意味だけでなく、表記の仕方や品詞、用例、対義語や類義語など、様々な情報が載せられている。辞書に掲載されている調べたい語句の複数の意味の中から、文脈にふさわしい語釈や用例を参考にして、適切な意味をとらえさせることが大切である。とくに、たくさんの語彙があることを知るだけではなく、文脈に即して、実際に使えるようになることが必要である。つまり、その語彙によって事態や行動・心情などを適切に表現することができ、自分の気持ちが相手に伝わったことが実感できるような経験が必要である。例えば語句を使って短文を作るなどである。調べたことを話す・聞く、書く、読むという言語活動に生かしていくようにすることが重要である。

また、「いつかは使ってみたい言葉」を書きためておく習慣を付けるなどの指導も有効である。例えば、読書記録の中に、新しく覚えた言葉を記録するページを設け、どのような文脈の中で使われていたかを記録しておく。こうした読書活動によって、学習者の生活そのものが広がり自然に語彙を豊かにすることができる。

### イ 国語B (活用)

1三 【子ども図書館 案内図】の工夫を取り入れて、郷土資料コーナーの見出しを書く問題

( 正答率 本市 69.0% 全国 59.1% )

( 無解答率 本市 1.1% 全国 7.1% )

#### ○分析

正答率が低かった原因として考えられることは二つある。

誤答になった原因の一つは、解答が長すぎたのではないかということである。国立教育政策策研究所教育課程研究センター発行の解説資料(37ページ)によると、正答には三つの条件があり、その第一番目に「見出しとして簡潔に書いてある。」が挙げられている。そして正答例は「郷土について知りたいとき」であった。枠囲みのなかの説明文を利用して見出しをつけると、「私たちの郷土の歴史・文化・産業について知りたいとき」と書いてしまいそうである。誤答例は示されていないが、これは見出しとしては長すぎると考えられないだろうか。思い切って簡潔にするということができなかったために、誤答になった可能性が考えられる。

二つ目は、設問の中にある「工夫を取り入れて」の「工夫」とはいったい何かがわからなかったことによる間違いである。枠囲みの中の「見出し」と「説明文」が同じような内容であるため、「見出し」と「説明文」の違いがよくわからなかったか、「見出し」と「説明文」の両方あることの必要性を生徒は感じられなかったのではないだろうか。

また、工夫というのが何のことなのかわからなかった場合でも、前出の「1二」の問

いの選択肢「2 利用者の立場で『～とき』と使う場面が書いてある」に気づけば、「私たちの郷土の歴史・文化・産業に関する本やパンフレットなどを集めている。」を、文末が「～とき」で終わるように書き換え、さらに余計なものを削って簡潔な表現にすることに行き着くだろう。文末を変えればよいことには単純すぎて気づかなかつたのではないだろうか。

◇学習指導に当たって

何が工夫なのかわかりにくい問題だが、二の問題の中にその「工夫」が示されている。二によれば、「工夫」とは、「場所ごとに枠囲みで情報が示されている。」「それぞれの枠囲みの近くにイラストが添えてある。」「利用者の立場で『～とき』と使う場面が書いてある。」「説明が敬体(です・ます体)で簡潔に書いてある。」の四つである。まさに与えられた情報をうまく活用することができれば答えられる問題と言える。問題文の中にヒントが含まれていることが往々にしてある、ということを指導していけばよいと思われる。

## (2) 算数・数学

### ①算数

#### ア 算数A (知識)

○設問の概要

A 2 (1) 数直線上に示された1万より大きい数を読み取る。

○出題の趣旨

「数直線に示された1万よりも大きい数を読み取ることができるかどうかをみる。数直線上の一目盛りの大きさを考え、それを基にして数を読み取ることが求められる。」

○学習指導要領の内容・領域

A 数と計算 第3学年(1)ア

( 正答率 本市 **60.1%** 全国 **64.1%** )

### 【分析結果】

正答率は全国平均(64.1%)をやや下回っていて、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。誤答については「16000」と答えた児童が3割を超えており、数直線の一目盛りの大きさを正確にとらえることができていないことがわかる。

### 【手だて】

数直線上に示された数を読み取るには、一目盛りの大きさを考える必要がある。この問題では、数直線の目盛りが9000から10000までの1000を10等分していることから、一目盛りの大きさが100であるととらえなければいけない。しかし、誤答に多かった「16000」と答えた児童は、一目盛りの大きさを1000であるととらえ、1000より6000大きい数と判断してしまったと思われる。

手だてとしては、一目盛りの大きさが、10や100、1000などの数直線から数を読んだり、それらの数直線上に数を位置付けたりする活動を取り入れたりすることが考えられる。数直線上に二つの数値が示されている場合に、その2数の範囲以外の数を読み取る活動や、数値と数値の間が5等分されている数直線や20等分されている数直線を基に考える活動を取り入れ、一目盛りの大きさをより意識できるようにすることも考えられる。

○設問の概要

A 6 方眼上の三角形の面積を求める式を書く。

○出題の趣旨

「示された方眼を基にして三角形の面積を求めることができるかどうかをみる。底辺と高さの意味について理解していること、及び鈍角三角形の面積の求め方を考え、

式に表すことが求められる。」

○学習指導要領の内容・領域

B 量と測定 第5学年(1)ア

( 正答率 本市 **59.1%** 全国 **66.9%** )

### 【分析結果】

正答率は全国平均(66.9%)を下回る結果(59.1%)であり、問題の趣旨を十分達成できている状況ではありません。面積についての感覚を身につけることに課題があるといえます。

鈍角三角形の面積の求め方を考え、式に表すことに課題が見られ、このことへの理解が不十分であると考えられる。

### 【手だて】

公式を適用して図形を求める際には、図形のどの部分の長さを測定すればよいかを判断することが必要である。指導に当たっては、底辺をどこにとるかで高さが決まることを確認する活動を取り入れることが考えられる。また、底辺をどこにとっても面積が同じであることを確認する活動を取り入れることも有効であると考えられる。

また、本問題のように方眼上に示された図形の面積の求め方を既習の図形を基にして式に表す活動を取り入れたり、どのように図形の面積を求めたのかを説明したりする活動や、複数の図形を見いだして三角形の面積を工夫して求める活動、他者が説明した求め方を用いて実際に図形の面積を求める活動を取り入れることも考えられる。

## イ 算数B(活用)

○設問の概要

B 1 (3) 長方形の紙にかかれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を書く。

○出題の趣旨

「示された解決方法を理解し、見方を変えた別の方法を考え、それを記述することができる。」

○学習指導要領の内容・領域

C 図形 第4学年(1)ウ

( 正答率 本市 **28.4%** 全国 **30.4%** )

( 無解答率 本市 **2.9%** 全国 **5.8%** )

### 【分析結果】

正答率は全国平均(30.4%)をやや下回っていて、問題の趣旨を十分達成できていない状況ではない。式に正しい数字があてはめられても、式の説明が正しくできなかったという割合が3割以上も見られた。示された解決方法を理解し、見方を変えた別の方法を考え、それを記述することに課題があると思われる。

### 【手だて】

指導に当たっては、他者の解決方法を基に、見方を変えて新しい解決方法を考えることができるようにすることが大切である。また、解決する過程で用いた式の意味を、言葉を用いて説明する活動を取り入れることが考えられる。式だけで説明している児童には、何を求めるための式なのかを問い、言葉を用いて説明させたり、言葉だけで説明している児童には、それを簡潔に表現した式を考えさせたりするなど、自分の考えをわかりやすく説明・記述できるようにすることが大切であると思われる。

○設問の概要

B 5 (3) 4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関

係をとらえ、判断のわけを書く。

○出題の趣旨

「4月と6月の集めたもの全体の重さとペットボトルの重さを基にして、割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる。」

○学習指導要領の内容・領域

D 数量関係 第5学年(2)

(正答率 本市 19.6% 全国 17.7%)

(無解答率 本市 4.1% 全国 7.6%)

### 【分析結果】

正答率は全国平均(17.7%)を上回っているものの、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。「2 ペットボトルの重さの割合は、4月と6月で同じ」と選択した児童が4割ほどいる。ペットボトルの重さは同じだが、全体の重さから見たペットボトルの重さの割合は同じでないことを理解できていないと考えられる。また、その根拠となる事柄を明らかにして説明を記述することが不十分である。

### 【手だて】

様々なグラフから、目的に応じて数量を読み取ったり、変化の様子をとらえたりできるようにすることが大切である。調べる目的を明確にした上で、グラフのどの部分に着目すればよいかを確認し、話し合う活動を取り入れることが考えられる。

基準量や比較量に当たる数量が何かをとらえられること、基準量と比較量を基に割合の大小の判断ができることが大切である。さらに、基準量が同じ場合には、比較量の大きい方が割合が大きくなることについても、数量を図に表してそれらの関係をとらえるようにすることが大切である。

ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を説明する際には、根拠として何を述べれば十分な説明になるかを考えて、根拠となる事柄を明らかにして説明することができるように指導していくことが大切である。

## ②中学校 数学

### ア 数学A(知識)

#### (i) 本年度の研究について

下野市の中学校における正答率は、A問題・B問題ともほぼすべての問題で、全国平均を上回った。そこで、今後の学力向上に活かすためにとくに正答率の低かった4間について分析した。

#### (ii) 問題分析

#### A問題 3(3)

次の問題と考え方を読んで、下の□に当てはまる言葉を書きなさい。

#### ○問題

折り紙を何人かの生徒に配るのに、1人に3枚ずつ配ると20枚余ります。また、1人に5枚ずつ配ると2枚たりません。生徒の人数を求めるために、生徒の人数を $x$ 人として、方程式をつくりなさい。

#### ○考え方

方程式をつくるために、を使って、上の問題の数量のうち、を2通りの式で表すと、 $3x + 20$ と $5x - 2$ になります。この2つの式が等しいので、方程式は $3x + 20 = 5x - 2$ である。

【正答】 折り紙の枚数

【間違えた理由として考えられること・対策】

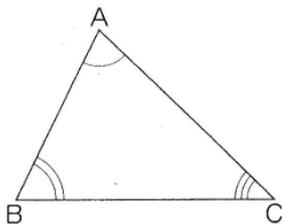
無回答は、8.9%であり、間違えた生徒も、49.4%が何らかの答えを書いていた。しかし、誤答として書かれたものは、「生徒の人数」「余った枚数」「方程式」などであった。このことから、式(  $3x + 20$  や  $5x - 2$  )をみて、これらがどんな数量を表しているのか理解できていないことや方程式をつくるために、等しい関係を意識する必要のあることが分かっていないと考えられる。

一元一次方程式をつくる際には、問題文の中から等しい関係にある数量を見つけ、それを2通りに表せば等式ができることを意識できるように指導する必要がある。方程式の利用の授業において、問題文を読ませ、まず、その問題文に出てくる数量(枚数や人数)を確認すること。次に、方程式をつくるためには等しい関係にある数量を2通りに表す必要があることを確認すること。そして、等しい関係にあるものが何かを見つけさせ、式をつくらせることを繰り返し指導する必要がある。方程式を板書させる際も、どんな等しい関係をつかって等式(方程式)をつくったのかも書かせて指導する必要がある。

【問題】 A問題 8

① 下の図の△ABCで、辺BCを延長した直線上の点をDとし、点Cを通り辺BAに平行な直線CEをひく。

② 下の図の△ABCで、3つの角の大きさを測ると、



したがって、 $\angle A + \angle B + \angle C = 72^\circ + 64^\circ + 44^\circ$

$$= 180^\circ$$

どんな三角形でも内角の和は $180^\circ$ である。このことの証明について、下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア ①も②も証明できている。

イ ①は証明できており、②は形の違うたくさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになる。

ウ ①は証明できているが、②は形の違うたくさんの三角形で同じように確かめても証明したことにはならない。

エ ①も②も形の違うたくさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになる。

オ ①は形の違うたくさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになるが、②はそれでも証明したことにはならない。

( 正答率 本市36.1% 全国28.9% )

【正答】 ウ

【解説】

①は、演繹的な推論による証明で、②は実測による帰納的な方法による説明であるので、ウになる。

【間違えた理由として考えられること・対策】

②において、形の違うたくさんの三角形で～証明したことになる。・・・の“たくさん”という言葉で証明したことになる。と勘違いをしていると思われる。形の違う三角形のすべてを確かめられるなら証明したことになるが、それは不可能である。この限界をきちんと理解し、演繹的な推論の証明により、例外なしに成り立つことを明らかにできるということの理解を深めさせることが大切である。

A問題 1 2

二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解しているかをみる問題

( 正答率 本市 **43.4%** 全国 **35.9%** )

【正答】エ (直線)

【間違えた理由として考えられること・対策】

二元一次方程式の解の集合が直線になることが理解されていない。授業の中で、二元一次方程式を満たす $x$ 、 $y$ の値の組を座標とする点を座標平面上に $x$ の値が整数の値以外の場合も含めて多数とり、それらの点が直線に並ぶことを確認する場面を設定する必要がある。その上で、方程式と関数を相互に関連付けてとらえらせるために、二元一次方程式を $y$ について解いた式に変形することによって、一次関数のグラフとの関連を理解させる。

イ 数学B (活用)

B問題 3 (3) 正答率 **23.5%**

与えられた表やグラフを用いて、蛍光灯と白熱電球の総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する問題

( 正答率 本市 **23.5%** 全国 **19.1%** )

( 無解答率 本市 **35.9%** 全国 **49.7%** )

【正答】

蛍光灯と白熱電球の総費用は、それぞれ使用時間の一次関数であるとみなし、2つの総費用が等しくなる時の使用時間を求める方法を、グラフや式などを用いて、その用い方を明示して説明する。

【間違えた理由として考えられること・対策】

必要な情報を表やグラフから適切に判断できなかつたり、事象を数学的に解釈し、問題解決に数学を活用できていない。表やグラフから必要な情報を取り出し、それをもとに判断できるようにするために、日々の授業で与えられた課題を読み取る時に、示されている言葉の意味を理解して読み取らせたり、自分なりの視点を定めさせてその目的に応じて情報を選択させるよう指導する必要がある。

また、無回答が多い。問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにするために、自分で構想を立て、実践し評価・改善する力を身に付けさせる必要がある。そのために、授業の中で、グラフや式などの「用いるもの」とその「用い方」について説明する場面設定することが大切であると考えられる。そのような経験を多くもたせることによって改善を促す必要がある。

## 4 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

### (1) 基本的な生活習慣

(1)「朝食を毎日食べていますか」、(3)(4)の就寝・起床時間については、過去2年同様、小中学生ともに好ましい状況にあると思われる。昨年度と数値を比較すると、小学校はやや上回り、中学校はわずかに下回っていた。全国平均は、小中学校とも、すべての割合が上昇している。

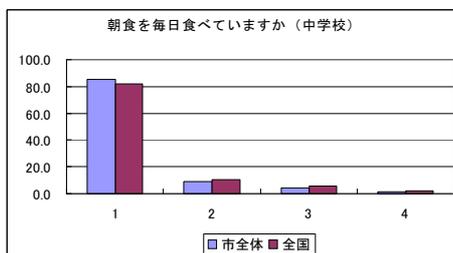
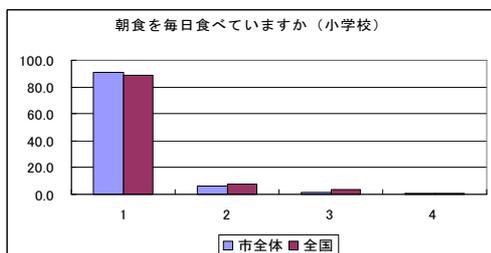
本市の小中学生は、基本的な食習慣や持ち物の確認、規則正しい睡眠などの基本的な生活習慣が全国よりも定着していることが今年も分かった。

やはり課題は、これも昨年度と同じように、就寝時間が不規則な小学生が市全体の22%、中学生が約28%いる点である。安定した生活リズムの大切さを児童生徒に指導し、家庭にも啓発を行い、より規則正しい生活習慣を継続させていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	97.2	96.0	94.8	92.4
(2)	学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	88.2	86.5	88.3	83.8
(3)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.0	75.1	72.4	69.4
(4)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.1	90.2	94.1	90.9

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

#### (1) 朝食を毎日食べていますか

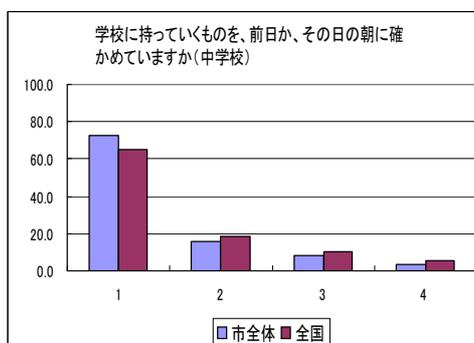


＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



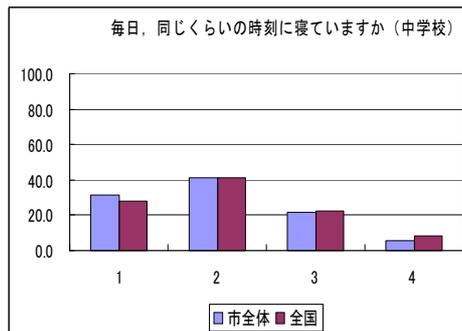
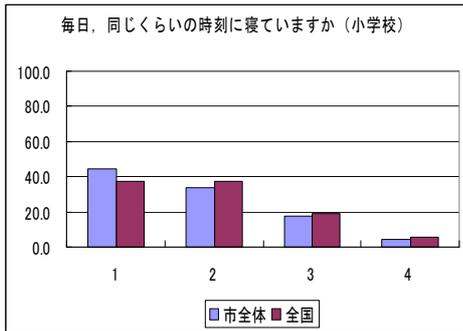
#### (2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか



＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

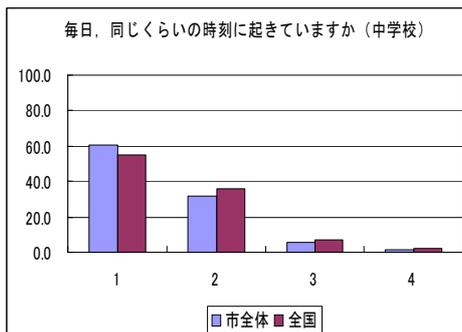
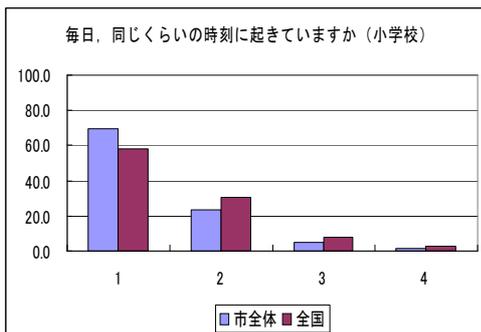
(3) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



〈選択肢項目〉

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(4) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



〈選択肢項目〉

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



(2) 学習時間等

〈家庭学習について〉

(16)「平日勉強をしている時間」(17)「学校が休みの日に勉強をしている時間」は、小学生では、1時間以上が平日57%、休日24%、中学生では、平日78%、休日50%という状況であった。小学生の平日の勉強時間は、昨年度より減少しており、全国平均とほぼ同じである。中学生の学習時間は、今年度も全国より顕著に上回る状況が見られた。

〈授業の復習について〉

(28)「授業の復習をしていますか」(29)「授業の予習をしていますか」は、「している」「どちらかといえば、している」の合計は、小中ともに全国を上回っていた。特に、中学校の予復習の時間は、小中ともに全国を10%以上上回っていた。学力調査との相関を見ると、特に小学校は復習、中学校は予習との関連が表れていた。

今年度も、本市の小中学生の学習時間は確保されており、家庭での学習の習慣化が図られていることがわかる。学校の宿題を行うことも全国と比べても良い状態にあると思える。

小学校では復習、中学校は復習とともに予習の習慣が、学力定着のために必要であることが確認できる。

今後、「家庭での勉強時間」「授業の復習」について、「30分より少ない(平日)」「あまりしていない」と答えた小中学生の割合を少なくしていくことが、課題であると考えられる。

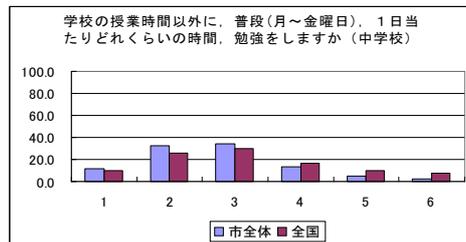
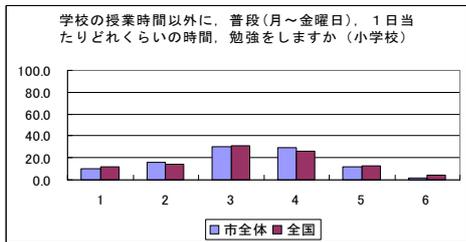
①学習時間について

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(16)	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	<b>57.0</b>	57.2	<b>78.4</b>	65.3
(17)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当た	<b>24.8</b>	22.8	<b>49.8</b>	37.1

りどれくらいの時間、勉強をしますか

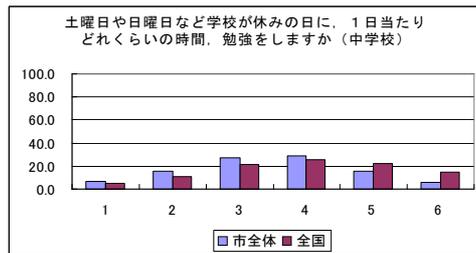
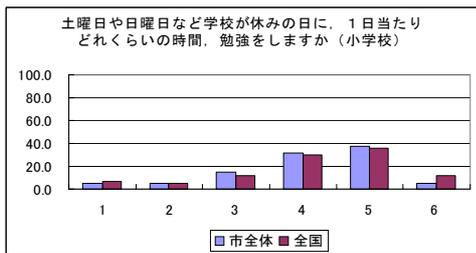
※数値は、1時間以上の合計

(16) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



- 〈選択肢項目〉
- 3時間以上
  - 2時間以上、3時間より少ない
  - 1時間以上、2時間より少ない
  - 30分以上、1時間より少ない
  - 30分より少ない
  - 全くしていない

(17) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



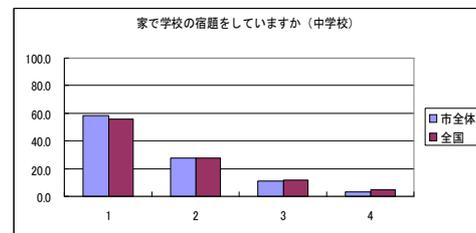
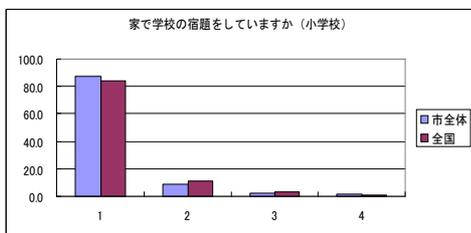
- 〈選択肢項目〉
- 4時間以上
  - 3時間以上、4時間より少ない
  - 2時間以上、3時間より少ない
  - 1時間以上、2時間より少ない
  - 1時間より少ない
  - 全くしていない

②授業の予復習等について

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(27)	家で学校の宿題をしていますか	96.2	95.5	85.6	83.0
(28)	家で学校の授業の予習をしていますか	44.0	37.5	42.3	29.5
(29)	家で学校の授業の復習をしていますか	52.3	46.0	59.7	30.5

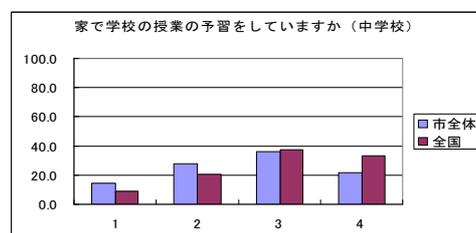
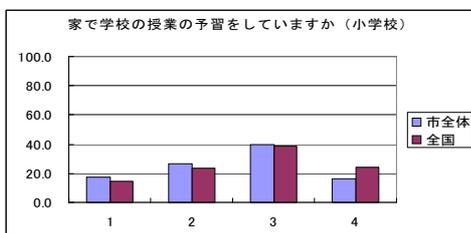
※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(27) 家で学校の宿題をしていますか



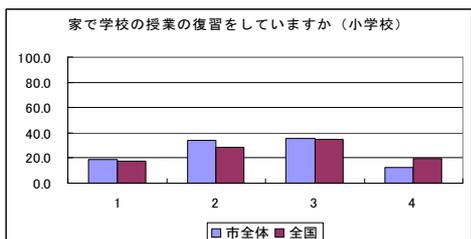
- 〈選択肢項目〉
- している
  - どちらかといえば、している
  - あまりしていない
  - 全くしていない

(28) 家で学校の授業の復習をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- している
  - どちらかといえば、している
  - あまりしていない
  - 全くしていない

(29) 家で学校の授業の復習をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- している
  - どちらかといえば、している
  - あまりしていない
  - 全くしていない

### (3) 国語・読書，算数・数学について

「国語の勉強は好きですか」は、小学生は全国を大きく上回り、中学生は全国をやや上回る結果であった。昨年度よりも小学校は数値が上がり、中学校は下がっているが、昨年，一昨年と同じ傾向が見られた。

「読書は好きですか」は、小中学生ともに5%以上全国を上回っていた。

「算数（数学）の勉強は好きですか」は、小学生は全国を上回り、中学生は全国をやや上回る結果であった。国語同様，昨年，一昨年と同じ傾向が見られた。

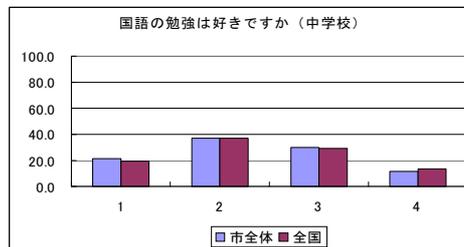
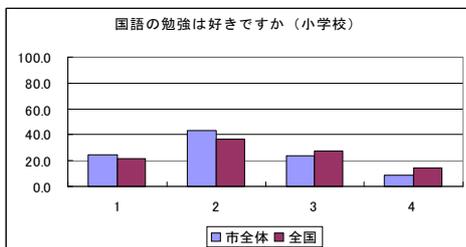
本市の小中学生は、国語，算数（数学）が好きな子ども達が多いことがわかった。全体的には本市の児童生徒は、国語より算数・数学の方が好きで、理解は国語の方がしやすい、と捉えていることが分かる。

読書が好きであることは、3年間同じ結果が見られ、本市の子ども達のよさとして捉えられる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(52)	国語の勉強は好きですか	67.3	58.3	58.9	56.7
(54)	国語の授業の内容はよく分かりますか	86.6	80.0	70.4	68.8
(55)	読書は好きですか	79.9	71.8	72.6	67.4
(63)	算数・数学の勉強は好きですか	73.5	66.2	55.8	52.5
(65)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	82.3	79.2	69.0	64.9

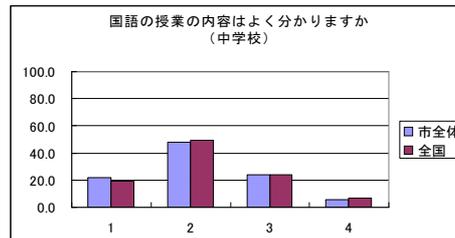
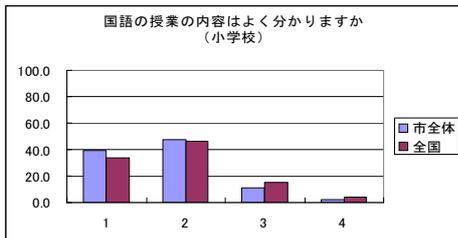
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

#### (50) 国語の勉強は好きですか



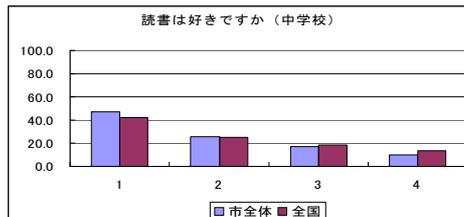
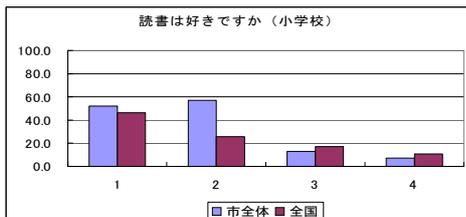
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

#### (54) 国語の授業の内容はよく分かりますか



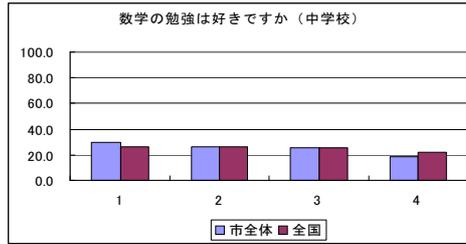
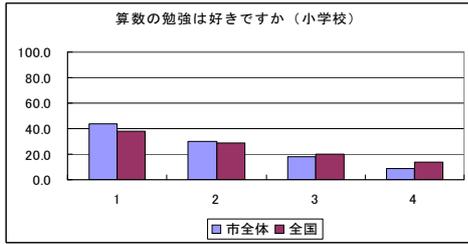
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

#### (55) 読書は好きですか



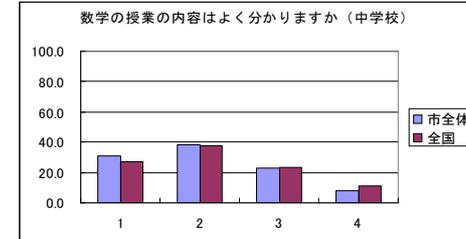
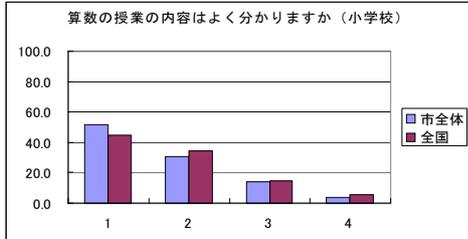
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(63) 算数(数学)の勉強は好きですか

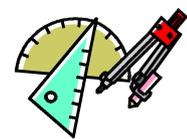


- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(65) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない



(4) 学校生活

(32) 「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」で、「そう思う」と答えた児童・生徒は、全国と同程度で8割を示す状況であった。(33) 「学校で好きな授業がありますか」で、「そう思う」と答えた児童・生徒は、小学生は8割弱、中学生では6割弱という結果であった。これは全国を上回っている。

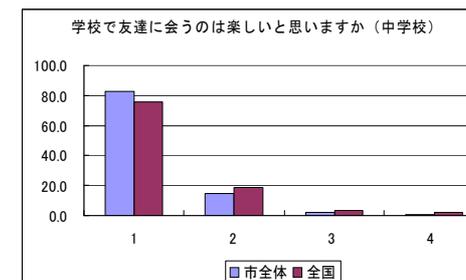
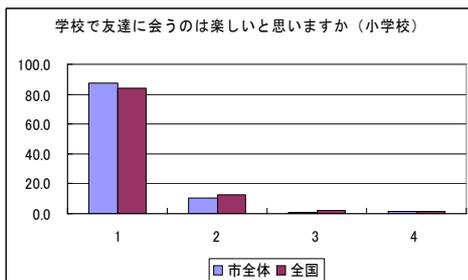
本市の小中学生の学校生活を問う項目は、全国と同程度、またはそれを上回る好ましい状況で、これは3年間同じ傾向が見られた。

下野市のほとんどの児童生徒は、友達との関わりがあり、好きな授業があることが分かった。今後も望ましい人間関係の育成と、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫に努めてほしいと願う。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(32)	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	97.8	96.5	97.3	94.7
(33)	学校で好きな授業がありますか	96.2	93.3	82.6	78.7

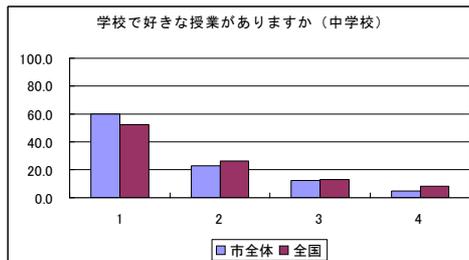
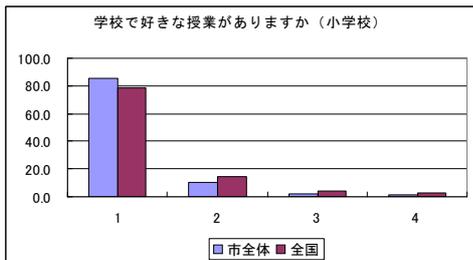
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

(32) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 そう思う
  - 2 どちらかといえば、そう思う
  - 3 どちらかといえば、そう思わない
  - 4 そう思わない

(33) 学校で好きな授業がありますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 そう思う
  - 2 どちらかといえば、そう思う
  - 3 どちらかといえば、そう思わない
  - 4 そう思わない

(5) 家庭でのコミュニケーション

「家の人と朝食，夕食を一緒に食べていますか」は，小中学生ともに全国をやや上回る結果であった。昨年度と比較すると数値が上がり，中学生が朝食を一緒にとる割合が向上した。

「学校での出来事について話をしますか」は，小学生で全国を下回る結果となった。

「家の手伝いをしていますか」は，全国を小学生は上回り，中学生はやや上回る結果であった。

本市においての「家庭でのコミュニケーション」は，今年度も全国と比べて，全体的にはまずまず好ましい状況にあると思われる。

しかし，「家の人と学校での出来事について話をしていますか」について，「あまりしていない」「全くしていない」と答えた小学生が市全体の3割弱，中学生が市全体の4割いるという結果は，3年間を通しての課題である。

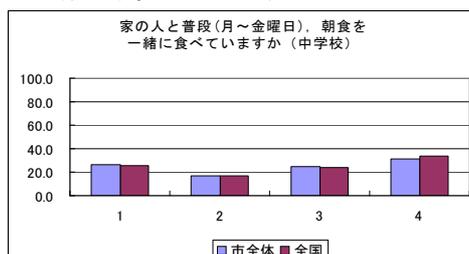
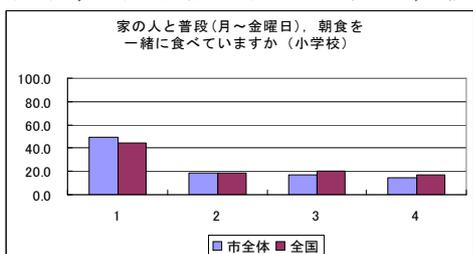
中学生は，部活動や塾等で，朝や帰宅後の生活の忙しさが影響していると予想される。

今後は，ファミリエ下野教育運動の「家族そろって食事をしよう！」をさらに推進していく必要性を感じる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(21)	家の人と普段(月～金曜日)，朝食を一緒に食べていますか	68.2	62.2	43.8	42.3
(22)	家の人と普段(月～金曜日)，夕食を一緒に食べていますか	92.6	89.0	84.8	81.7
(23)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	70.1	70.9	66.1	59.8
(24)	家の手伝いをしていますか	84.4	78.5	64.2	63.0

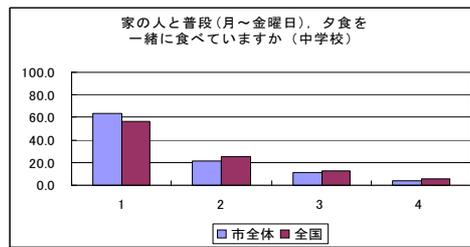
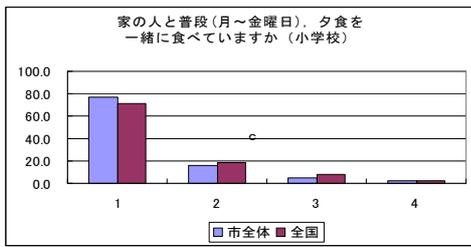
※数値は，「している」「どちらかといえば，している」の合計

(21) 家の人と普段(月～金曜日)，朝食を一緒に食べていますか



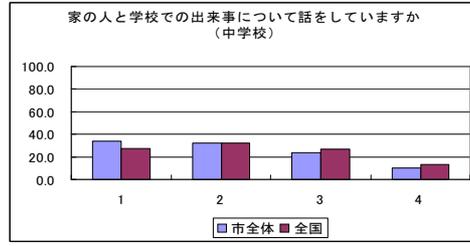
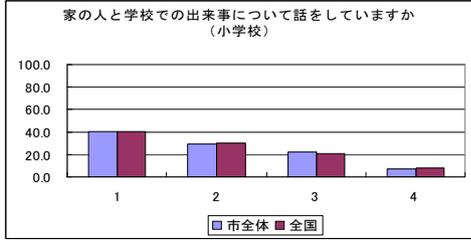
- 〈選択肢項目〉
- 1 している
  - 2 どちらかといえば，している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない

(22) 家の人と普段(月～金曜日)，夕食を一緒に食べていますか



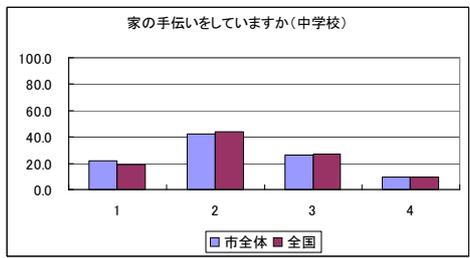
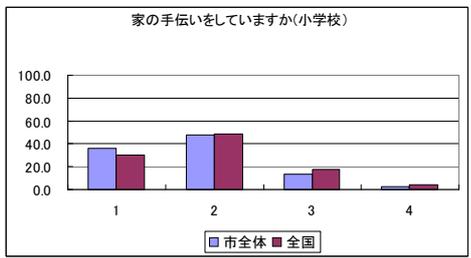
- 〈選択肢項目〉
- 1 している
  - 2 どちらかといえば、している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない

(23) 家の人と学校での出来事について話をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 している
  - 2 どちらかといえば、している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない

(24) 家の手伝いをしていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 よくしている
  - 2 時々している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない



(6) 規範意識・自尊意識等

規範意識については、「学校のきまり」「友達との約束」「いじめ」の項目で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた小中学生の割合が、今年度もすべて全国を上回っていた。昨年度の市と比較すると、どの項目も数値が上昇していた。

自尊意識等については、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標をもっていますか」ともに全国を上回っていた。特に中学生の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目は、昨年度は肯定的な回答をした割合が全国と同等かやや下回る結果で課題となっていたが、今年度は5%程度上昇し、改善が見られた。

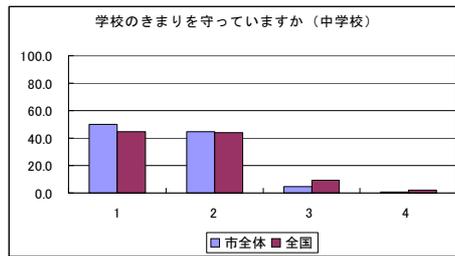
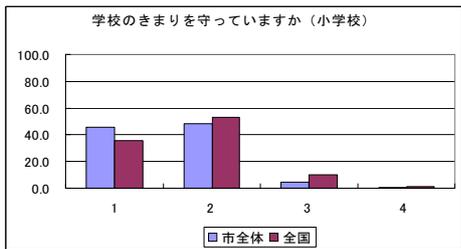
3年間を通して本市の小中学生は、規範意識が高い状況にあると言える。これは、落ち着いた学校生活を送っている大きな要因と考えられる。

小学校の段階から適度な自尊感情を高めること、自分の将来について真剣に考える機会を発達段階に応じて段階的に設けること、キャリア教育の計画的推進が、今後重要であると考えられる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(37)	学校のきまり(規則)を守っていますか	94.5	88.5	94.3	88.6
(38)	友達との約束を守っていますか	97.7	96.5	98.2	96.1
(42)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.1	94.9	93.2	90.3
(7)	自分には、よいところがあると思いますか	79.8	74.6	70.5	60.2
(8)	将来の夢や目標をもっていますか	90.2	86.3	80.5	71.0

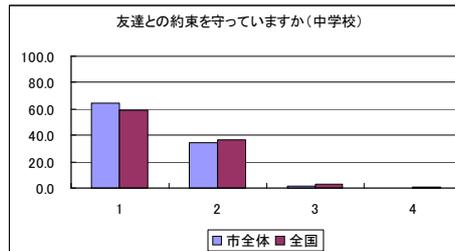
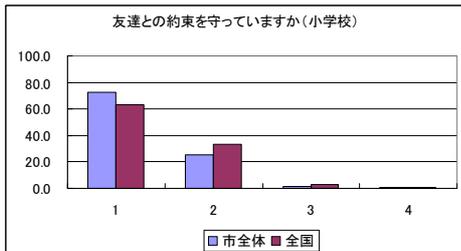
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

(37) 学校のきまりを守っていますか



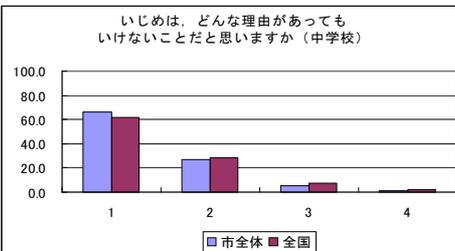
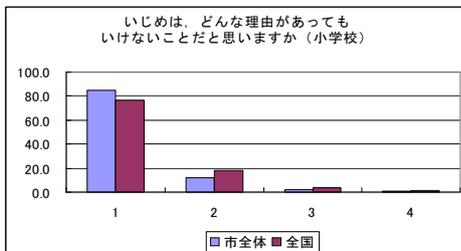
- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(38) 友達との約束を守っていますか



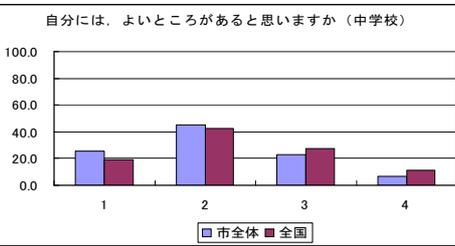
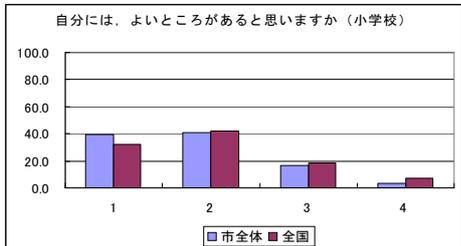
- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



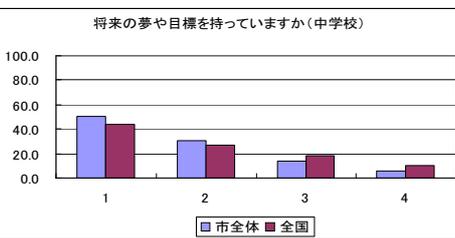
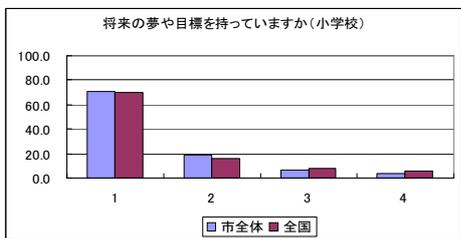
- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(7) 自分には、よいところがあると思いますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(8) 将来の夢や目標をもっていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(7) 地域について

「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」は、小中学校とも大きく全国を上回った。昨年度の市と比較しても、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の数値が増えている。しかし、昨年度同様、中学生においては、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた中学生が、7割以上占めている。

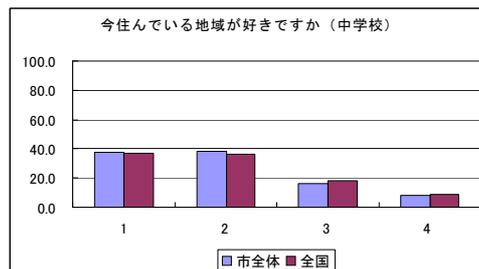
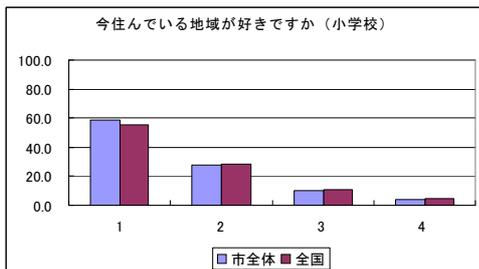
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」は、参加している小中学生が全国平均を上回っているが、参加していない小中学生も小学生で3割、中学生で6割弱いた。これは昨年度と同じ傾向であった。

本市は、数多くの史跡や田園に恵まれた、歴史や文化、自然の豊かな地域である。3年間の調査を見ると、地域についての関心や参加については二極化傾向にあるようである。合併して4年目になるが、さらに子ども達が「自分たちの住んでいる下野市」に関心と誇りが持てるように、「ふるさと学習」を推進していくこと、学校・家庭・地域社会が連携して地域の行事、活動を盛り上げていくことが課題と言える。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(35)	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	<b>57.9</b>	47.2	<b>30.3</b>	23.4
(36)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	<b>71.8</b>	62.4	<b>41.7</b>	37.8

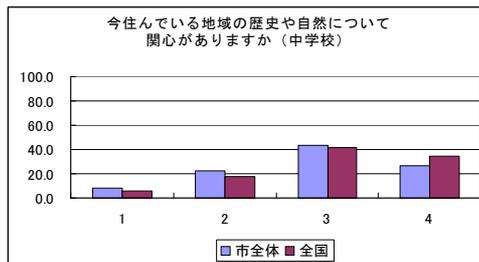
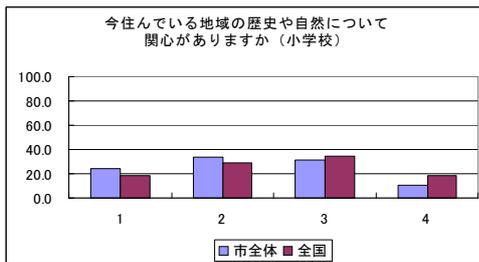
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

(35) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

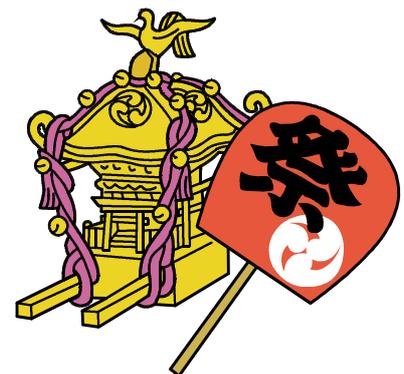


- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(36) 今住んでいる地域の行事に参加していますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない



## 5 学校質問紙の分析結果

### (1) 良好な面

学校質問紙の下野市の結果を全国（県）、県と比べて、小学校中学校ともに上回っていた質問内容は、次のとおりである。

質問 番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(12)	児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	<b>100</b>	90.2	<b>100</b>	90.6
(13)	児童・生徒は、礼儀正しいと思いますか	<b>100</b>	87.2	<b>100</b>	86.5
(14)	就学援助を受けている児童・生徒の割合 ※在籍していない、5%未満	<b>95.9</b>	93.8	<b>95.8</b>	91.9
(15)	日本語指導が必要な児童・生徒の割合 ※在籍していない、5%未満	<b>91.7</b>	90.4	<b>100</b>	86.7
(18)	学校の職員用コンピュータ 1 台当たりの職員数（事務職員は除く） ※1人未満、1人以上2人未満	<b>100</b>	47.4	<b>100</b>	46.6
(19)	普通教室に LAN が整備されていますか	<b>100</b>	47.7	<b>100</b>	46.5
(21)	学校図書館図書標準が達成されていますか	<b>91.7</b>	50.7	<b>100</b>	43.8
(22)	教員以外の教員で学校図書館に関する事務を担当する職員が置かれていますか	<b>100</b>	39.6	<b>100</b>	40.1
(24)	学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか ※週に数回程度行った、月に数回程度行った	<b>58.3</b>	48.0	<b>75.0</b>	16.1
(29)	児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていますか	<b>100</b>	97.4	<b>100</b>	92.5
(32)	学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしていますか	<b>100</b>	97.9	<b>100</b>	97.0
(35)	児童・生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導していますか	<b>100</b>	90.3	<b>100</b>	81.5
(36)	児童・生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか	<b>100</b>	91.0	<b>100</b>	85.5
(37)	学校や地域であいさつをするよう指導していますか	<b>100</b>	99.2	<b>100</b>	98.9
(38)	国語の指導として、普通教室でのインターネットを活用した授業を行っていますか ※週1回以上、月1回以上	<b>33.3</b>	13.4	<b>25.0</b>	3.4
(41)	算数・数学の指導として、普通教室でのインターネットを活用した授業を行っていますか ※週1回以上、月1回以上	<b>8.3</b>	7.1	<b>25.0</b>	2.1
(49)	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか	<b>75.0</b>	72.1	<b>100</b>	68.1
(58)	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	<b>91.7</b>	87.5	<b>100</b>	76.5
(69)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	<b>77.0</b>	74.2	<b>75.0</b>	56.6
(72)	職場見学や職場体験活動を行っていますか	<b>41.7</b>	36.2	<b>100</b>	97.1
(73)	P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか	<b>100</b>	96.3	<b>100</b>	92.5
(76)	国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	<b>100</b>	99.0	<b>100</b>	87.0
(79)	国語の指導として、児童・生徒に与えた家庭学習の	<b>100</b>	55.2	<b>100</b>	93.6

(76)	課題について、評価・指導を行いましたか				
(87)	保護者からの意見や要望を聞くために、学校として	<b>66.6</b>	65.7	<b>75.0</b>	65.5
(84)	懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどのくらい実施しましたか ※年間に4回以上、年間に3回				
(89)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修	<b>100</b>	93.7	<b>100</b>	82.6
(86)	修を行っていますか				
(93)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成	<b>100</b>	94.1	<b>100</b>	86.8
(90)	果を教育活動に積極的に反映させていますか				

数字は、選択肢1「よく行った」2「どちらかといえば、行った」の合計  
 または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計  
 上段の質問番号は小学校、下段の質問番号は中学校

児童・生徒の様子について、学校は、礼儀正しく、落ち着いているととらえていることが分かる。児童・生徒質問紙の「基本的生活習慣」「規範意識」と照らし合わせても、児童・生徒の姿は合致していると見られる。

下野市は家庭、ICT、学校図書館等の教育環境も恵まれていると見ることができる。

授業での効果的なICT活用や地域と連携した教育活動の充実、校内研修の活性化等、学校や市で重点を置いて行っている取組の成果が表れていると言える。

## (2) 課題とされる面

学習状況調査の下野市の結果を全国と比べて、小学校中学校ともに下回っていた質問内容は、次のとおりである。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(25)	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか ※行っていない	<b>83.3</b>	39.0	<b>50.0</b>	16.7
(33)	児童・生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えていますか	<b>75.0</b>	91.6	<b>75.0</b>	80.9
(46)	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用しましたか	<b>75.0</b>	83.5	75.0	78.7
(47)	平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成20年度において、第6学年や他学年の授業の中で活用しましたか	<b>16.7</b>	59.8	<b>50.0</b>	50.8
(48)	学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか	<b>75.0</b>	84.6	<b>75.0</b>	80.8
(55)	第4学年(小)、第1学年(中)のときの算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか ※習熟度別の少人数指導を行っていない	<b>58.3</b>	54.0	<b>75.0</b>	64.7

数字は、選択肢1「よく行った」2「どちらかといえば、行った」の合計  
 または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

全国学力・学習状況調査の自校の結果の活用の仕方については、今後さらに工夫が必要であると思われる。

